

気候変動適応策における「民力」の貢献



安原一哉
一般投稿論説
茨城大学 名誉教授

言うまでもなく適応策は、緩和策と並んで気候変動対応策における車の両輪である。「緩和策」(原因物質の削減)のキーワードは“カーボンニュートラル”であるのに対して、「適応策」(影響の低減)におけるそれは、“レジリエンス”(災害への備えや回復力強化など)であるが、筆者の専門分野の地盤工学では、気候変動問題に関する研究は緩和策に偏っているように見える(安原:地盤工学会誌、72(9)、1-6、2024)。しかし、以下の2つの理由から、緩和策よりは適応策により注力して“カーボンニュートラル(以下、CNと称する)社会”よりは、あらゆるレベルでの“レジリエンスが高い社会”を目指すべきと考えている。

◆理由1: COP30(2025)の議論に見られるように、地球温暖化の要因である温暖化効果ガス(GHGs)の削減の取り組みは十分には進捗していない。このことから2050年までにCN社会を実現するという目標の達成に対しては悲観的にならざるを得ない。

◆理由2: 仮に、CNが世界で実現されたとしても、地球温暖化の影響はそこで停止するわけではなく、影響は数百年とも千年とも続くといわれている(国立環境研究所・塩竈英夫博士による、2024)。現状では、このことは一般市民にも政治家にも十分には認知されていない。

以上の事実を踏まえると、日本における気候変動対応は危うい状況にある。根拠となる事例を挙げてみよう。

●事例1: 国際的な研究組織「国連持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」(SDSN)は、2019年以降、世界各国のSDGsの達成度を評価した「Sustainable Development Report(持続可能な開発報告書)」を発表している。このうち、2025年版では日本の取り組みは、5.ジェンダー平等や13.気候変動対策など六つのゴールが「最低評価」(深刻な課題がある)だった。

◆事例2: 昨年発足した内閣では、令和7年11月に17の「成長戦略」を公表した。ただ、ここには、気候変動はもちろんCNやレジリエンスというキーワードは明示的には含まれていない。わずかに、関連する戦略としては、防

災・国土強靱化とGX(副題)がみられるだけで、気候変動に対する取り組みは明確ではない。

このように、日本の気候変動対応は危うい状況にあるが、国際的にはもっと深刻である。ただ救いもある。COP30には、米国のいくつかの企業が参加して地球温暖化対応への強い意思を示した。これを踏まえて内外の識者が“これこそが気候変動対応において必須の行動である”と評した(Reuters、2025.11.25)。

日本における気候変動適応策の最近の研究成果の一つとして、“気候変動適応策オプション・データベース”(https://adaptation-platform.nies.go.jp/external/s-18/index.html)がある。ここで紹介された適応策オプション685件のうち、耐水性住宅や熱中症対策などの提案と実践の事例はあるものの、事業者の取り組みは88件(1割強)で多くはない。ただ、言い換えると、事業者にとってはSDSNが“遅れている”と指摘している分野(食糧とエネルギーの確保、海と陸の豊かさの維持、ジェンダーや平等への対応など)への取り組みの推進にビジネス展開と社会貢献の大きなチャンスがある。

本文のタイトルには「民力」という言葉を使っている。COPで行動した米国企業にならって日本の事業者とともに、市民と学生の力をも総合してボトムアップする力をここでは「民力」と称している。これらの力の結集があれば「自助」と「共助」をもって「公助」を推進し、「気候変動」に挑んで行ける。このことは緩和策にも共通するものであるが、これまではこの視点が不十分であった。

ここで取り上げる課題は学生には迂遠に思えるという懸念があった。しかし、最近、早稲田大学や茨城大学で本件に関連する講話をする機会があり、ボランティア活動や利他を考えるを通じ、“ワガコト化”する学生(早稲田大学)、そして、世界の混乱や昏迷を突破するには、民主主義を大事にすることが重要と発言する学生(茨城大学)諸君に接してその危惧が払拭された。

とは言いながら、一見迂遠に思えることを「ワガコト化」あるいは「ワレワレゴト化」していくのは、容易なことではない。その意味では、『「地球のためにわたしができること」って、なんだろう?と問うことは本当の幸せを感じるため、考えるため、選ぶための問いかけでもあり、あわただしい毎日のなかで、つい忘れてしまいがちな、「本当に大切なこと」を取り戻すきっかけでもある。』といわれる枝廣淳子氏(アル・ゴア著「不都合な真実」、講談社、2007の翻訳者)の言葉は、言い得て至言である。